

西田 孝司(松原市文化財保護審議会)



▲「行幸記念」と「高見在郷軍人」碑 在郷軍人碑の裏面に「昭和7年11月建立」とある。



▲高見神社(高見の里3丁目) 境内で昭和3年11月の御大典の際、「ええじゃないか」を再現して乱舞し、喜びを現した。鳥居左横に「行幸記念」碑が建つ。



▲「御大典記念」碑 左が「御大典記念」。右が「松原村分会」。分会碑の裏面に「昭和3年11月」とある。



▲阿保茶屋の記念碑(上田1丁目) 手前の中央が「御大典記念」碑。後方が「日露戦役」碑。左の樹木の後ろが「忠魂碑」。

帝国在郷軍人会松原村分会が昭和前期、阿保茶屋・高見に

帝国在郷軍人会天美村分会は、昭和十二年(一九二七)五月、陸軍大将で在郷軍人会会長の井上幾太郎に揮毫してもらって天美村の忠魂碑を建てました(天美小学校南東側)。同年十二月には、恵我村の忠魂碑が同じく井上幾太郎による揮毫で、恵我小学校西北側に建てられます。同碑も、在郷軍人会恵我村分会が関わって、いたと考えられます(歴史ウォーク)309。

在郷軍人とは、兵役を終わった後も、戦争が起こった際には召集される軍人を行います。明治四十三年(一九一〇)、軍事訓練と国民統制のため、帝国軍人会が各地にできました。井上幾太郎は、昭和十二年から終戦の二十年(一九四五)まで在郷軍人会の会長を勤めていました。在郷軍人会は、昭和二十一年(一九四六)に解散しますが、同会が建碑したのは、戦死者を弔う忠魂碑だけではありません。

例えば、近鉄河内松原駅西側を通る中高野街道と、北へすぐの長尾街道が交差する地は、阿保茶屋とよばれています。交差点西南側には、「日露戦役記念」碑(明治三十九年五月)や「松原村忠魂碑」(昭和十年四月)が並んで建てられています(「歴史ウォーク」103・309)。この両碑の前、中高野街道沿い入口に、「御大典記念」「松原村分会」と刻んだ二基の石碑が見られます。「松原村分会」の裏面には、「昭和三年十一月」と建立年月を記しています。昭和天皇の即位を祝う記念碑なのです。昭和十五年(一九二〇)十二月二十五日、大正天皇が崩御されました。これを受け、翌昭和二年(一九二七)一月、十二月までの御大喪の儀を経て、昭和三年(一九二八)一月十七日から十一月七日まで、昭和天皇の大礼前儀が行われました。十一月十一日にかけては即位礼が挙行されています。続く、十一月十二日からは、大嘗祭・大饗・大礼後儀が十一月三十一日まで続き、十一月にわたる儀式が執り行われたのです。その折、全国各地では、「代替り」の「御大典」のお祝いを大々的に行ったのです。同記念碑は、昭和三年十一月を中心とする昭和天皇の大礼儀式にあわせて、「松原村分会」とあることから、帝国在郷軍人会の松原村分会が明治三十九年の「日露戦役記念」碑の地に、建てたと思われま

さて、昭和天皇が即位した昭和時代前期、わが国は軍国主義化と戦時体制へと進んでいきました。昭和七年(一九三二)十一月十三日、河内平野一帯で陸軍特別大演習が行われることになりました。その際、一か月前の十月一日に北河内郡守口町(現守口市)から南河内郡北八下村河合(現河合)丁目へ移転してきたばかりの帝国女子薬学専門学校(現高槻市、大阪医科薬科大学)に野外総監部が置かれました。

当初は、昭和天皇が新校舎へ行幸され、視察される予定でした。ところが、天皇はお風邪を召されて行幸ができませんでした。このため、参謀総長の

閑院宮載仁親王など皇族方や陸軍高官が野外総監部となった校舎で視察されました。校舎をはさんで、隣村の高見にかけての西除川や近鉄高見ノ里駅方面の北軍と、河合集落南方の南軍に分かれて訓練が行われたのです。

高見の里三丁目、高見神社が鎮座しています。「シンメイ様」とよばれ、神明社と考えられることから、祭神は天照大神と推測されます。江戸時代の丹北郡高見村の氏神でした。明治時代以降、高見村は近隣の阿保・上田・田井城などの村々と合併して中河内郡松原村高見となりました。

この高見に在住していた帝国在郷軍人たちは、高見神社に昭和天皇の行幸が予定されていたので、記念碑を神社境内に建てたのです。

高見神社入口の鳥居を入った左側にその石碑が見られます。右側の碑表面には、陸軍のマーク(☆)を上部に示し、中央に「行幸記念」と刻みます。左側には、表面には「行幸記念」のマーク(☆)を示し、中央に「高見在郷軍人」とあります。また、裏面に建立年月の「昭和七年十一月建立」と記されています。陸軍特別大演習の一舞台となった高見の在郷軍人たちにとって、このうえなく喜ばしい名譽なことだったのです。

すでに、高見の人々は、高見神社で昭和三年の御大典を祝って、幕末におこった「ええじゃないか」を再現し、驚喜して乱舞していました(「歴史ウォーク」108・219)。高見神社を舞台にした「御大典」祝祭から「行幸記念」の建碑は、戦時体制へと向かう歴史の中で、実現されたものだったのです。